

JAXA の樋口理事が資料 12-2(JAXA の 19 年度計画)を説明した後、活発な質疑応答があった。(LNG や準天頂が評価部会の審議で決着し、JEM の打上げ(ISS)計画が再設定されたことを反映し、計画を修正した。尚、19 年度は現中期計画の最終年度である。)

池上:4月から三菱重工に技術移転をするが、研究開発に力を入れることは一般論として解るが、其れについて何か此処に書かれていることは、既に読み込み済みだから見直しの中に入っていないということか。

JAXA 樋口:いえ、原文をつけてあるがその6ページ、H- A の項に「民間移管を行う。」としてある。既に行なわれているが、フォローオンがあるので敢えて「行なう」と書いた。JAXA は信頼性向上事業を行う。また、基盤技術の維持向上があり、部品等を開発する。例えば、SRB のエロージョンをなくした新しいものの開発や、枯渇した部品を新しいものに代える業務を、規模を小さくやっていく。

青江:新設組織に「宇宙医学・生物学研究室」がある。宇宙飛行士の医学的問題をフォローするのはわかるが、宇宙環境利用生物学実験もやるのか¹。

JAXA 樋口:無重力下での人間の影響を調べるという、宇宙飛行士の医学的問題より、学術部門としては少々幅広い部分を

¹ 有償実験で対処したいのであろうが、簡単ではない。JAXA の資金で、ISS の有効性を確認し、広報が行き届いた後に考えることであらう。

やろうと考えている。

青江:これは、材料研究も含めて、JAXA が何処まで抱えるかという問題である。

JAXA 樋口:そういう意味では、あらゆることを出来るわけではないので、種になる部分をやり、大学との連携で世話役になったり、研究者のサロンになったりする。全部を抱えるのではない。

青江:勿論であるが、一寸もやる必要が無いかもしれない²。

JAXA 樋口:宇宙飛行士をたくさん抱えているし、データはありますし。(切られる)

青江:抱えている宇宙飛行士の健康問題などは JAXA で抱えて良いということである。

JAXA 樋口:人的にも大々的に広げられる話ではないと思う。

青江:余り大きくはないと思うが、生物学研究を統合的というほどのものではないと書いてくれれば安心できる。

JAXA 樋口:言葉が(問題)ですか。統合とは、医学だけでなく、生物学など関係する学問の広がりを示している。

青江:材料研究を含め、少しご注意を頂いて、利用実験は基本的にはサイエンスコミュニティに背負って貰い³、JAXA が背負い込む部分は非常に少ないという考え方でやっていた

² 極論である。

³ 「基本的」ではなく「究極的」ではないか。また、重点化の基本方針は、宇宙開発委員会が「長期的計画」で示し、JAXA が実行計画を立てるときの鏡にするのではないか。それを「JAXA にご注意いただく」では、投げやりではないか。

だと良い。

JAXA 樋口:わかりました。

松尾:広がりから、必然的にそうなると思う。仰りたいことは、それを解った上で取り仕切れる方が、中にいるかということ。

JAXA 樋口:其処は大丈夫だと思います。

池上:私の質問は其れに関連しているのだが、技術移転を行いリソースが余り、⁴何をやるかを考えるときのプライオリティ付けをしっかりとやって欲しいということである。でないと、また、⁵新しいことを次々やりますという話になる。⁵すると、肝心のところが落ちている可能性がある。青江委員が言っていることをそのように取る。やろうと思えば、宇宙だっていくらでもやることがある。その内のどれをやるか、場合によっては他の力を使うなりしながら、多分中では議論されていると思うが、4月以降リソースが余って、それをどう使うかというとき、プライオリティをつけてやっていただきたい。

JAXA 樋口:3機関を統合したとき、4年半で100人削る目標が掲げられた。どう削るかも課題であるが、150人削り50人再配

⁴ 発言の真意を確認する必要がある。JAXAが「リソース」といえば人材、人員を意味するが、此処では資金を含めている可能性がある。MHIがH-A改善の資金を出すと考えているかもしれない。

⁵ 宇宙科学のコミュニティでは、「ピアレビュー」が重点評価を担ってきた。宇宙実利用にはそのようなコミュニティが無いが、旧宇宙開発委員会がそれを行ってきたことになる。その後継者の発言として、他人事のように映り、不適切ではないかと感じる。

置する計画を立て、その再配置計画に基づいて人を配置している。刹那的に仕事が増えた部署に配置するようなことはしていないつもりである。人が余ることは無い。

池上:基本的には評価委員会が評価している。今回、何か評価委員会でコントラバーシャルなことはあったか。

JAXA 樋口:今、特記してお話しする件はない。18年度の計画を審議するのはこれからです。

奈良:話題になったのは評価方法であった。S、A、B、Cという評価が、その段階でいいか、B評価が足りない、多い、といった議論が多かった。それについて水平展開し、全体での評価方法を検討しようとする。多かったのは、役員の評価を含め、評価のバランスが悪いということで、個別の細かい話は無かった。一般的に、プログラム管理をしっかりとやろうという議論があった。

青江:Fなんてのがありましたね。

奈良:Fはまだあります。JAXAはFが付く。何年打上げというのが一寸ずれるとそのようになる。これは物事の本来的な評価なのかという議論があり、そもそもFの概念が少し違うという、一生懸命やっても、できなければFが付いてしまう。JAXAの役員評価でマイナス評価が付いている唯一の例である。

森尾:イオンエンジンは宇宙輸送系には入っていないのか。何処の項目に入っているのか。

JAXA 樋口:衛星の推進系と、科学探査の基本技術に入っている。
(配布資料で、その書かれた位置を探して紹介した。略)

松尾:何かと苦しい時期であるが、頑張ってくださいと思います。